

■ Newsweek International 掲載「フィガロ技研」（日本語訳）

ガスセンシングイノベーションの世界的リーダー

フィガロ技研は50年以上の専門知識によって、可燃性ガスや毒性ガス、及び空気質検知など、さまざまなガスセンサーを提供しています。

日本のガスセンサーメーカーであるフィガロ技研は、創業以来、ガスセンサーの先駆者であり、1969年に世界初の半導体型ガスセンサーの商業生産を開始し、トップクラスの信頼性の高いガスセンサーをリードし続けています。同社社長の宇高利浩氏は、次のように述べています。「ユーザーの安全を確保するという当社製品の重要性を理解しています。低い不良率でさえ日本では受け入れられないと考えられており、品質と欠陥に対するこの厳格な日本のアプローチが私たちの強みとなっています。」

フィガロ技研の可燃性ガスセンサーは、日本、米国、ヨーロッパ、および多くのアジア諸国で住宅用およびRVガス検知器に広く使用されています。また、この日本の企業は世界中の家電、HVAC、および自動車産業にさまざまな空気品質センサーも供給しています。その中でも、業界をリードする電気化学COセンサーは、同社の世界市場シェアのほぼ50%を獲得しています。

フィガロ技研のTGS8000シリーズは、ガス検知材料に関する豊富な専門知識とMEMSテクノロジーを組み合わせて開発されました。それらの新しいMEMSタイプのメタンセンサーは、世界で最も消費電力が少ないものです。そして、超小型サイズの新しいCOセンサーによって、ガス検知器の設計に自由度が増え、幅広いアプリケーションが可能になります。これらの新しいガスセンサは、主電源の制限なしにどこにでも設置できる電池式ガス検知器で使用できることでIoTおよびICTの時代に広く対応することができます。室内空気制御が顧客の優先事項になっている現在では、フィガロ技研のCO2センサーは換気の指標として機能し、建物がCO2レベルの規制に準拠していることを確認するのに役立ちます。

フィガロ技研は、49の国に広がる広大な流通ネットワークと中国の生産施設によって世界中により安全で快適な環境を提供しており、世界をリードする技術でお客様を守ることで安心を届けています。